

大一電機株式会社

業種	製造業	事業所所在地	大阪府大阪市	資本金	10,000千円
				従業員数	26名

 	被承継者（左）		
	紺谷あや子	88歳	※承継時
	承継者（右）		
	紺谷彰良	33歳	※承継時

事業承継を行った時期	被承継者と承継者の関係
2015年 9月	その他親族（孫）

承継前の主たる事業の内容	承継前の主たる事業の課題
1958年設立の非鉄金属部品の製造加工業。銅、真鍮、鉄などを材料とした旋盤加工、フライス加工、「ロウ付け加工」等、多岐にわたる加工技術を独自に確立し、変圧器や電気接点、クレーン用ブレーキなどの製品づくりを実践してきた。当社はロウ付け加工や銅加工において、オンリーワンとも言える技術と実績を保有し、高い評価を得ている。	・その他 協力会社吸収により開始したクレーンのブレーキパーツ修理事業は、当社の持つロウ付け加工や金属加工に関する技術力とノウハウで高く評価され、修理依頼は増加傾向にあった。しかし人力で行うパーツ清掃は、作業効率向上のボトルネックであった。

事業承継を実行するまで		
きっかけは？	承継計画の立案	承継までの不安と準備
承継実行の 6年前	被承継者と承継者で話し合ったこと	被承継者の承継に対する不安
2006年に入社し、2009年より取締役役に就任したことで承継を決意した。また、2014年7月に協力会社であった電気部品の修理会社（有限会社三田電機製作所）を吸収し、第三工場にてクレーンのブレーキパーツに関する修理事業を新たに開始したこともきっかけである。	会社をどんな会社にしたいかや5年後、10年後どんな会社になってほしいかなど未来に向けて今何をしていくべきかを話し合った。	特になし
	関係者との調整	承継者の承継に対する不安
	特になし	新事業を行い会社を成長させるか、本業を革新しながら長く続けていくか、受け継いだ会社を続けていくには何が一番よいのか、従業員をまとめられるかなど多くの不安があった。

これに一番苦労した！
創業当初から勤務する従業員もいたので、代替わりによって経営方針なども変わり色々な反発もあった。経営方針のベクトルが「正解」なのか、何が一番会社にとってよいのかを考える事が現在も苦労している事である。

事業承継について相談したこと	
相談機関の業種	承継に関して受けたサポート内容
税理士・税理士法人	経理は会社の要になるので何にいくら使っているか、債務や預貯金など経理全般。
いつから相談？	
承継実行の 1年前	
相談のきっかけ	
以前から取引やつきあいあり	

新たな取組の標題

修理事業の効率化・高収益化の実現および余力を生かした自社製品の開発。

新たな取組の内容	その他の新たな事業活動
----------	-------------

- 産業用掃除機（ドライアイスブラスター）を新たに導入することで、効率化のボトルネックとなっている清掃工程の短縮、コストダウンを実現した。
- 清掃工程が洗い油を使用した手作業からドライアイス洗浄に変わり、導入前の3日間工程から半日程度に短縮することができた。また、修理工程全体では従来の10日間から7.5日間へ削減することができた。
- 工程日数の短縮により増加する依頼にこたえることができ、さらなる利益の創出が期待できる。また、洗浄剤が揮発性の高い洗い油から人体に影響のないドライアイス（二酸化炭素）に変わること、作業員への健康負担が減り、汚水処理の必要性も低減するので環境への負担も軽減できた。



地域経済やバリューチェーンへの貢献	補助対象経費の内訳		
当社はさまざまな強みを持つ地元大阪の製造業と横断的に結びつき、ひとつの仕事を効率良く補完し合えるネットワーク構築を進めている。本事業の成果により対応キャパシティが増えることで、ネットワークの付加価値も高まり、地域経済の貢献につながると思う。	<table border="1"> <tr> <td>経費の主な使い道</td> </tr> <tr> <td>設備費（産業用掃除機）</td> </tr> </table>	経費の主な使い道	設備費（産業用掃除機）
経費の主な使い道			
設備費（産業用掃除機）			

認定経営革新等支援機関から受けたサポート内容			
<input checked="" type="checkbox"/> 制度内容の理解	<input type="checkbox"/> 事業計画の立案	<input checked="" type="checkbox"/> 各種提出書類の作成	<input type="checkbox"/> 補助事業の実施

制度内容についての解説、必要書類の整理、事業承継補助金事務局への対応。

今後に向けて～次の目標	
2018年から2021年に向けて	修理工程の大幅短縮を実現したことで対応キャパシティが広がり、増加する顧客ニーズに応えることができる。また、作業時間の短縮により生まれた余剰時間を付加価値の高い廃盤部品の製造や、培ったノウハウを活かした自社オリジナル部品の開発・製造を行うことで、さらなる売上と利益の創出を目指していく。
売上高	10 %UP

これから事業承継に取り組む事業者の方へ	
被承継者からの一言コメント	承継者からの一言コメント
特になし。	親族間の承継になると必ず「甘え」と「遠慮」が出てくると思いますが、承継する側もされる側も会社を一番に考える事がスムーズに承継できると思います。